

2023 夏号/ 第328号
活動報告版

みどりの ニュースレター

目次

2022年度の活動報告まとめ
そのほかの行事情報

今号は、2022年度活動報告をまとめました。

旬の色とりどりの野菜が並ぶスウェーデンの公設市場。すぐに捨ててしまう包装は一切ついていません。

過剰包装のプラスチックは本当に必要なのか、もう一度しっかり考えたいものです。



プラスチックが悪いのではなくて、それを使う人間のほうが、使い方を間違えているのでしょ。いつの間にか、一握りの人間だけを最優先させる社会がずっと続いてきました。

とても長い年月をかけて地球が生み出してくれた資源、その大切な資源を使わせてもらっている私たちが忘れたのは感謝と謙虚さ。貪り尽くすだけの日々から、とにかく急いで抜け出しましょう。

特定非営利活動法人 環境市民 事業報告 <2022年4月1日～2023年3月31日>

はじめに

2022年、世界は脱炭素へと舵を切ったその歩みを確かなものとするために、各国で再生可能エネルギーへの転換が図られ、脱炭素を経済的指標に組み込み「ESG投資」に注目が集まるなどしました。

環境市民は、地域を持続可能に変えていくためには、地域に住む人、地域で事業を営む人、地域に関わる人たちが主役となって、地域を変えていかなければならないという発想で、中小事業者向けに「企業のエシカル通信簿」を使って、自らの状態をセルフチェックできるプロジェクトを立ち上げました。このような新たなチャレンジができたのも、これまで信頼関係を大切に活動してきたネットワークの仲間がいたからこそと心から感謝しています。持続可能な地域創造ネットワークの活動や消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク、グリーン連合、あどぼの学校など、ネットワークとしての力が集まるからこそ、社会への影響力も力強くなっていくと考えています。2023年も弛まずみなさんと協力しながら進んでまいります。

また、環境共育では環境活動パワーアップ講座や学校環境教育の支援が毎年継続できていること、そこで出会った人たちが新たな活動に進んでいることは大きな励みになっています。

そして大きな問題として抱えている、原発再稼働問題や福島原発の汚染処理水の問題、加速しなければならないダイベストメントなどについても、信頼できる情報を収集すると共に、わかりやすく発信するなど、環境と未来を大切にしたい世界を目指してまいります。

これからも、環境市民を応援して下さるみなさまと思いを共有し一緒に活動してまいります。

環境市民のビジョン

「持続可能で豊かな社会・生活を実現する」

海は青く澄み、川には魚が泳ぎまわり、
山にもまちにも緑があふれ、夜空には星が美しくまたたき、
生きものたちは絶滅の危機にさらされることなく生を尊ばれ、
人々は他者と競い合うことなく共に助け合い、
金儲けだけの仕事に追われることなく、
子どもたちは未来に目を輝かせ、
齢を重ねた老人たちはその知恵と経験を敬われ、
誰もが社会の主人公として輝き、
宗教や肌の色の違いで殺し合うこともなく、
異なる文化を認め合い、飢えも戦争も差別もない……世界。

環境市民の大切にしている理念と5つのミッション

1. 真の民主主義社会をめざし、その主人公としての市民であることを自覚する
2. 専門性豊かな活動と誰もが参加できる活動を結びつける
3. 地域から日本を変えていく
4. パートナシップで相乗効果を発揮し、社会的な影響力を創出する
5. 人、団体、社会、そして地球環境の多様性を大切にする

エコシティーを創る
経済をグリーンにする
豊かなライフスタイルを創造する
エコロジーな次世代を育む
世界の人々や NGO と協働する

この1年間で活動したこと

■エコシティをつくる

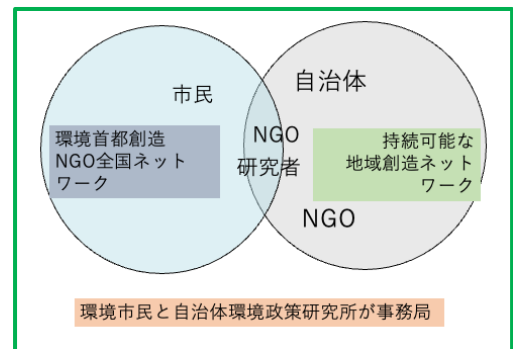
1 持続可能な地域創造ネットワーク（ネットワークとしての活動）

- ・ 会員自治体が市内横断型や協働で実施している「持続可能な地域づくり」の状況調査を行いました。
- ・ 建築の省エネをテーマに長野県庁の環境政策と建築に関する政策・施策を講演・報告を研修懇談会として実施し、意見交換も行いました。
- ・ 東京の武蔵野大学の協力により全国大会2日間有明キャンパスで開催しました。

1 日目：全体会では「持続可能な地域」をテーマに、自治体首長や研究者、NGO メンバーによるリレートーク、および、次の3つのテーマでグループセッションを行いました。

- A) 持続可能な地域づくりを実現する人材と組織、
- B) 日本の地域社会版持続可能性指標の議論・作成
 本代表理事のコーディネート、松下和夫理事による情報提供などが行われました。
- C) ゼロカーボンシナリオ検討の実践。

2 日目：「持続可能なメガネをかけ直そう」をテーマにパネルディスカッションと総合討論を行いました。



■経済をグリーンする／豊かなライフスタイルを創造する

1 「持続可能な消費者」推進事業

第6回となる2022年度の企業のエシカル通信簿は、加工食品メーカー10社を対象に調査を行い、その結果を発表しました。調査対象の企業10社全てから回答を得て、企業とのコミュニケーションも促進しました。また、結果報告会は日比谷文化ホールで開催し、「企業のエシカル通信簿」のレーティングを発表すると同時に、調査で大切にしている市民目線とは何か、どんな方法・ものさしで企業を評価してい

るのかを伝えました。会場からの質問も多く、時間切れとなるまで応答時間をとりました。終了後は当日参加していた調査対象企業と、単なる投資や儲けを追求するのではない、「市民目線」の意味についても意見交換できました。

2 市民目線の中小企業者サステナビリティ自主調査推進プロジェクト

- ・研究者や経済団体関係者、NGO等の専門家からなる検討会議を設置しプロジェクトを進めました。

- ・試行版の市民目線の中小企業者サステナビリティ

自主調査と研修は長野県と秋田県で実施。地元団体と共に仕組みの基礎ができました。参加事業者へのヒアリングで、2年目に向けての課題抽出と実施における計画が立てられました。

加工食品メーカー10社を調査

	1.サステナビリティ 体制	2.消費者の 保護・支援	3.人権・ 労働	4.社会・ 社会貢献	5.平和・ 非暴力	6.アニマル ウェルフェア	7.環境
明治HD	7	6	8	7	3	2	5
日本ハム	6	8	6	7	3	4	3
味の素	7	7	7	5	2	2	5
山崎製パン	3	4	4	5	1	1	3
マルハニチロ	7	8	7	5	2	1	3
伊藤ハム米久HD	7	6	7	8	2	2	3
日清製粉G本社	9	7	8	7	2	1	5
ニッスイ	9	7	8	7	2	3	4
雷印メグミルク	8	7	7	7	1	1	4
森永乳業	9	9	8	8	1	1	4

3 SDGs 実体化及びCSR サポート事業

- ・関西 SDGs プラットフォームに運営委員として参加しました。また、SDGs 市民社会ネットワークからの依頼で、「Sustainable Development Report 2022」から見えるSDGsの世界と日本の進捗状況へのコメントを出しました。他にも企業の取り組み監修を行いました。

- ・事業者向けSDGs関連セミナーでは、地域社会とSDGs・地域事業者の役割について伝えました。

- ・ワンワールドフェスティバルにおいて、SDGs映像コンテストの審査員を務めました。

4 環境マイスター研修認定制度推進事業

- ・新型コロナウイルスの影響で、研修の実施ができたのは滋賀県自動車販売店協会の環境マイスター研修認定のみでした。



5 水Do!キャンペーン/Refill 京都の活動

<環境市民が関わる活動>



- ・Refill 京都のメンバーとして、京都市内のカフェ等への給水スポットへの参加働きかけ、行政への働きかけ等を行いました。

- ・Refill サミット（2月）で開催地として準備、運営に協力しました。

デモンストレーションとして
給水スポットを設置しました

6 3R+αの推進

- ・京都市ごみ減量推進会議の「スーパーマーケット調査で、市民が見つけた好事例報告会」に共催団体として協力しました。また、京都市廃棄物減量等推進審議会委員として審議会に出席し意見を出しました。

7 自然エネルギー学校

事業者に脱炭素経営が求められる理由・意義について学び、省エネによる投資回収年数や二酸化炭素排出量削減可能性について探り、再生可能エネルギー調達手段についても確認しました。計画策定の視点を情報提供することで、今後の活動につながることを期待しての開催でした。

8 原発のない社会をつくろう！プロジェクト

京都開催の「バイバイ原発きょうと」へ、呼びかけ人・運営委員として参画しました。

3/11に円山野外音楽堂で開催された「3.11 バイバイ原発きょうと」では進行役を務め、その後のデモ行進にも環境市民として参加。円山公園から京都市役所前まで原発の停止、脱原発を訴え歩きました。



9 パワーシフトをすすめる活動

・パワーシフト運営委員会に参画し、パワーシフト電力会社セミナー・意見交換、キャンペーンの広報などを行いました。

10 全国小水力発電大会の開催運営

・全国小水力発電大会実行委員会の実行委員として全国大会の企画、広報、当日運営に携わりました。参加延べ人数は1000人以上となりました。

■エコロジカルな次世代を育む

1 エコスクール

グリーンフラッグ継続の審査を実施しました。地元の自治体やNGOが現地での審査、環境市民は書面による審査を実施しました。審査した厚木市立玉川保育所、熊本県立水俣高等学校は無事合格しました。

2 環境教育・環境活動パワーアップ講座

対面での講座へとシフトしつつ開催しました。内容は座学だけでなく自分たちの活動を徹底的に見直し、活動経験が豊富な多様な分野のNGO団体の講師からのアドバイスを受けられました。環境活動とともに持続可能な地域や社会を意識した講義となり、参加者からは高評価を得ていました。



3 学校環境共育サポート事業

高校2年の生徒たち自らで課題解決のための実践に取り組む授業サポートを行いました。新型コロナウイルスの影響で、3月に留学する生徒が集中したため、3学期はワークショップやフィールドワークを中心とした内容に組み替えました。

また、プログラム変更で中学3年生での実施はありませんでした。

4 講師派遣事業

対面講演ができる状況になり、講演依頼内容もエシカル消費、人権と環境、SDGs 関連、気候変動、生物多様性など広がりました。講師派遣数は 11 件で、目標以上の収入は得ることができました。

5 SOMPO 環境財団 C S O ラーニング事業（インターンの受入）

インターン生はオンライン作業と事務所での活動を併用し、企業のエシカル通信簿の調査、環境活動パワーアップ講座や Wende～光と水のエネルギー～自主上映会でスタッフとして運営に参画しました。

6 ESD 推進

広報担当理事として ESD-J に参画。2023 年春に ESD-J のウェブサイトのリニューアルに関わりました。

7 環境市民ひろば～農林体験版～

環境市民 30 周年記念事業として、フィールドソサエティの久山さんの協力のもと信州・開田高原エコツアーを企画しましたが、コロナ渦で次年度に延期することにしました。

■市民の発信で世界を変えよう

1 発信交流のための戦略と手法の構築

・広報・メディア・コミュニケーション戦略にまでは至りませんでした。また、古くなっていた Web サイトのシステム問題を、新サイトへの引越してようやく解決しました。膨大なデータ移行と整理のため、まだ情報の修正は継続中です。

2 ニュースレター発行

会報誌「みどりのニュースレター」を必要に応じて発行しました。



3 電子かわら版（ウェブ、SNS での発信）

メールニュースとして月 2 回の情報発信をしました。また、SNS ではボランティアメンバーが中心となって環境市民のラジオ番組や活動についての発信をしました。

4 ラジオ「環境市民のエコまちライフ」番組制作

2022 年度は放送録音回数が減少しましたが、環境市民の活動を紹介するとともに、ゲストに、スタジオイや電話インタビューし、地域で活動する小学生や中学生の活動も紹介することができました。

5 環境市民チャンネル えしかる荘へいらっしやい

プラスチックをテーマにした動画の後編は最終チェック中です。環境問題との関係が見えにくいものを猫のユーチューバーがわかりやすくゲストからのインタビュー方式で聞き出しています。

6 映画「Wende2～未来からのアプローチ～」の企画協力

<2022年度 活動計算書> 詳細は、環境市民ウェブサイトの報告をご覧ください。

収入の部(単位:円)

入会金・会費収入	1,100,000
寄付収入	414,932
助成金収入	3,365,000
事業収入	4,174,185
その他(コロナ補助金他)	1,150,026
当期収入合計	10,204,143

支出の部

事業費	6,443,330
管理費	3,355,249
当期支出合計	9,798,579

当期収支差額 405,564

<2023年度 活動予算書>

収入の部(単位:円)

入会金・会費収入	1,105,000
寄付収入	550,000
助成金収入	3,500,000
事業収入	4,710,000
その他(雑収入)	20,020
当期収入合計	9,885,020

支出の部

事業費	6,759,000
管理費	4,349,000
当期支出合計	11,108,000

当期収支差額 ▲1,222,980

その他の催事情報

8月16日(水)
京エコロジーセ
ンターで開催し
ます!

8月20日(日)
に下村がお話し
します。

認定 NPO 法人環境市民

http://www.kankyoshimin.org
life@kankyoshimin.org

京都市中京区麩屋町通二条下る第二ふや町ビル 206
TEL 075-211-3521 FAX 075-211-3531